「長崎県地域文化章」受章

肥前福島玄蕃太鼓の会（鴨川信文会長）が２月６日、「第 30 回長崎県地域文化章」を受章しました。

肥前福島玄蕃太鼓の会は昭和 62 年２月、福島の自然風土、人情、歴史、伝統芸能を受け継ぎ、勇壮な和太鼓の響きで町の活性化を目指して設立されました。27 年間での公演活動は通算 370 回に及び、主な演奏活動は、平成２年の長崎旅博覧会、平成５年の大阪’93 御堂筋パレード、平成８年の世界炎の博覧会、昨年は東日本大震災チャリティー事業でのボランティア公演など、市内外や県外でのイベントなどに積極的に出演され、地域の活性化や地域文化の向上と発展に寄与されています。

九州地区スポーツ推進委員功労者表彰

古賀　昌男さん（御厨・池田上・61 歳）

平成７年松浦市体育指導委員に就任され、平成 23 年のスポーツ基本法改正に伴い、現在は松浦市スポーツ推進委員として活躍されています。

就任以来、本会の活動の充実および生涯スポーツの普及発展や各種大会運営などに尽力されるとともに、本市の社会体育事業である松浦市民駅伝大会をはじめ、ロードレース大会、体力測定などにも積極的に参画されています。

また、ニュースポーツ出前講座などの指導者として若手育成に力を注がれるとともに、市民の健康増進のために生涯スポーツの振興にも大きく貢献されています。このような活動が評価され、九州地区スポーツ推進委員協議会から表彰されたものです。

わたしたちの郷土 ―107巻―

中世の松浦（73）鷹島海底遺跡

1月28日、北欧のデンマークからバイキング博物館水中考古学担当責任者ヨーエン・デンカー氏とデンマーク国立博物館保存科学担当責任者デビット・グレゴリー氏が九州国立博物館の招へいに伴い松浦市を訪問されました。

お二人からは、デンマークの水中考古学が１９５８年から１９６２年にロスキルダフィヨルドで西暦１０００年ごろに沈められた５隻のバイキング船の発見と調査に始まり、この５隻の船を展示するために１９６９年、ロスキルダにバイキング博物館が開館され、それ以降、この地がデンマークの海事考古学の中心地となっていることをお聞きしました。

また、デンマークにおけるバイキング船の調査・研究と展示方法や国立博物館での船の保存処理についてご説明を受けました。

バイキング博物館では、海底から引き揚げられたバイキング船の展示や来館者を楽しませる手法として、復元した新しいバイキング船に乗って航海したり、造船中の船の見学、ロープ作りの現場の見学と体験、バイキングの衣装に変身する体験コーナー、バイキング料理の提供など、子どもから大人まで、家族で楽しく一日を過ごせる博物館、歴史に興味のない人でも十分に楽しめる博物館になっていることが分かりました。

松浦市が進めている鷹島神崎遺跡を活用した「水中考古学の拠点」に向けて大変参考になる施設であり、博物館構想では「地域の海事文化になるような考えを視野に入れたらどうか」とのアドバイスもいただきました。

お二人には、その後、鷹島歴史民俗資料館・埋蔵文化財センターを視察していただき国内の海底遺跡では初の国の史跡指定を受けた鷹島神崎遺跡について紹介し、遺物の保存処理についてアドバイスをいただきました。

▲グレゴリー氏（左）とデンカー氏（中央）

Australia Day
ー オーストラリア・デー ー

Hello! ALT
こんにちは！外国語指導助手です

ティーガン・スコット
Tegan Scott
オーストラリア出身

1月26日はオーストラリアでは「オーストラリア・デー」という祝日でした。日本では祝日ではありませんが、松浦市では1月25日に「オーストラリア・デー」というイベントが開催され、多くの子どもたちが参加しました。

当日は、ゲームがあったり、マッカイ市民とのSkype（スカイプ）による交信があったりして、すごく楽しいイベントでした。私は、「ハート投げゲーム」のコーナーを手伝って、母国のことを思い出しました。

「オーストラリア・デー」とは、1788年にイギリスの艦隊がポート・ジャクソンに到着し、アーサー・フィリップ総督がイギリスの旗を掲げた日です。この日は、植民地時代の歴史としてさまざまな方法で祝われてきましたが、1994年から全国的に祝日となりました。オーストラリアでは、この日、多くの人々がバーベキューをしたり、ビーチに行ったりして、友人や家族と屋外で過ごし、この素晴らしい国に住んでいることに感謝します。

一方、「オーストラリア・デー」はすべてのオーストラリア人にとって、幸せなお祝いというわけではありません。オーストラリア先住民は、この日を「侵略の日」と呼ぶこともあります。なぜなら、艦隊が到着したその日は、先住民に対する迫害が始まった日だからです。

「オーストラリア・デー」を「侵略の日」と呼ぶことは議論の的になっていますが、私個人としては、名前を変える必要はないと思います。人々が歴史の暗い部分に目を向けることは良いことだと思います。人々が自国の良いところ、悪いところを覚えておくことはとても大切だからです。

図書館のおすすめ本

市立図書館
☎ 0956－72－4677

松浦市ホームページで
「松浦市立図書館」を検索

『避難所』
垣谷（かきや） 美雨（みう） / 著　新潮社

段ボールの仕切りすらない体育館で「絆」を強要される3人の妻たちの胸中に迫り、東日本大震災であらわになった家族の実像を描いた長編小説。社会派小説の旗手が、真の「再生」について問いかけます。

『ねこどんなかお』
村上 しいこ / 文
MAYA MAXX（マヤ マックス） / 絵　講談社

ちょっとあたっただけで怒る、またたびをもらってもだえる、おならの音を聞いて笑う。あんな顔やこんな顔。ねこって、ほんまにおもろいなあ。ねこのさまざまな表情や動作が楽しい絵本です。

◆◆◆あかちゃん・子どものお気に入り◆◆◆

このコーナーでは図書館に来てくれたあかちゃんや子どもたちのお気に入りの一冊を紹介します

調川町白井免の末武真有美さんと理（おさむ）ちゃん（4歳）と藍（あい）ちゃん（7か月）

【お気に入りの本】

『恐竜をさがせ！1』　平山廉／監修　偕成社

『だっこだっこ』　松浦市だっこだっこの会／制作

【お母さんからひとこと】

「今日、図書館に行こうか～？」と言うと、「ヤッター、さあ今日、何を借りようかな～」とうれしそうな長男。図書館の雰囲気にも慣れ、自分が見たかった本が見つかった時の喜びや、探すおもしろさが出てきたようです。借りた本で学んだ知識をおばあちゃんに教えたり、時にはひいおばあちゃんにも話したりして、本がコミュニケーションの一つになっています。これからも自分の興味があるものから手に取って楽しんでもらえたらいいなと思っています。私も子どもに負けないようにお気に入りの1冊を見つけないといけませんね（笑）。

※図書館ではお母さんとあかちゃんの来館もお待ちしています！